

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700472		
法人名	コンフォート(有)		
事業所名	グループホーム楽々園		
所在地	岡山県井原市大江町4505-5		
自己評価作成日	平成22年6月18日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の生活リズムを尊重し、日常生活においてその方の残存能力を活かした援助をするようにしている。本人の思いをよく聞くことで安心と信頼のある生活ができるように努めている。そばに寄り添うことで、安心穏やかに楽しく生活ができるように、心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年6月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議へ施設のご近所の方が多数参加され開催されていました。そこで地域の方も認知症とは何か、地域密着型施設は何なのかなど、言葉では知っていたけれど理解していなかった事柄を 運営推進会議を通じて理解してもらい、施設運営の面においても地域の協力が非常に良好で、地域に根ざした施設運営をされていました。異業種から介護の世界に参加され、多方面からのアドバイス、助言を聞き入れ、改、改善、利用者満足第一を実践されてきた代表者の姿と職員の協働に努力がうかがえました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活が送れるように、日々、管理者、スタッフは利用者と会話し、その方の望んでいる生活に近づこうとしている。	管理者が常に理念を念頭に置き、日々の業務に反映できるように声かけ・指導をしているとのことでした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やお大師様参り等のとき、地域のかたとの挨拶や納涼祭に参加して地域の方と交流している。	地域との連携もいろいろな場面で実施されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のときは地域の方に参加して頂き、実情を話し協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実情を報告し、地域の方の意見も参考にし日々介護に活かすようにしている。	施設のご近所方々も多数運営推進会議へ参加されていました。地域との連携も運営推進会議を十分に活用し地域密着型施設としての役割をはたされていました。	行政との連携も十分できておられるようですが、今後は一事業所だけの連携にとどまらず今以上、広い(市の担当者へ事業者側から投げかけ)連携に努めていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の介護サービス事業者連絡協議会に参加し、情報等を密にするようにしている。又、介護相談員さんが定期的に来られ、指導して頂いている。	市町村との連携も十分とられていました。利用者の空き情報などの情報交換、介護相談員の訪問もあり良好な関係ができていたようでした。	「身体拘束」の持つ意味をより深く見つけたい、参考資料 外部研修などを活用し職員教育の面からも指導に力をいれていただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人らしい生活が送れるように、日々、管理者、スタッフは利用者と会話し、その方の望んでいる生活に近づこうとしている。	身体拘束だけでなく声かけにも注意をし、必要な時には管理者が直接職員に注意をするなど、日常業務の中で指導されているとのことです。職員間でもお互いに注意をしようようにしているとのことでした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習参加はもちろんだが、常にそのようなことがないようにスタッフ同士が気をつけている。どんなことが身体拘束になるのか、勉強会で職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用されていた方がおられたので、これからも要望があれば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時に利用者、家族に十分な説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱を設けて要望をおききするようにしている。	家族との定期的な連絡で要望を聞いたり、来所時の会話の中で汲み取った思い・希望などを職員に伝え話し合っサービスに反映させていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティングをして、職員の意見、思いを聞いている。	代表者を含めた話し合いの機会をもち、職員の意見や要望を聞いている。月1回は事業所内でミーティングを開き個々の思いが話せるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の意見を聞き職場の労働環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は、同業者との交流は出来ていないが、今後は同業者との交流をはかりサービスの質の向上に取り組みきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に面接して馴染みの関係になれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・要望を十分聞き取るため、家族様に信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、思いを聞かせて頂くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは自分でして頂き、出来ないところを援助するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には連絡を密にし、一緒に本人の援助ができるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前から利用されていた美容院へ行かれたり、馴染みの人がたずねてくださる。家族に対して、手紙等で支援に努めている。	家族の協力を得ながら利用者の希望に添うように事業所として努力されていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の能力、気持ちの変化に常に目をむけ偏りのないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に聞きながら、意向に沿うように援助している。	ご本人様の思いを大切にしたい理念のもと、日々の生活の中で職員が寄り添い細やかな視点での対応がなされていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活環境をお聞きし、情報収集に努めている。一番、楽しかった頃をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を、本人に確認して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族にアセスメントをして気持ちを重視している。本人、家族にケアプランの説明して、意見を聞きその後のプランに反映させている。	アセスメントを重視し、生活目標プランをたて介護計画に活かしておられました。日常業務の中で寄り添うケアから得た利用者の言葉、行動を見逃さないように業務日誌の記入にも努力されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に、カンファレンスを行い、見直しを行い、職員間でプランの共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに合わせて援助するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の参加者の方々にも助けをいただきながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月往診にきていただいている。また、受診にも行っている。	ご家族の協力も得ながら、病院への受診対応がされていました。内科医だけでなく認知の専門医との連携もあり、医療連携にも努力をされていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調が悪い方は、かかりつけ医に指示を仰ぎ、受診し、早急な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師さんとの、情報を共有している。定期的に、状態を報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方は、家族や病院と連携を取り、支援していく。	重度化に対しては職員を交えて前向きに取り組まれている。現状できる限りの対応はされているようでした。	ターミナルケアの必要性はこれから高くなるので前向きに取り組んで頂きたい。については、まず終末期に向けた職員の意識教育向上に取り組んで頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療マニュアルを作り、救急対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域の方にも声をかけている。	訓練が実施されました。地域の方との強い協力体制も構築され訓練にも参加されました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは、無理強いをしないように本人の意志の確認をして職員が気をつけて声掛けをしている。	個性を大切にしながら言葉かけ、誘導等にも細やかな配慮がなされていました。一人ひとりの行動パターン 状況に合わせた対応がなされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自然に自己表現が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を維持できるようソファと一緒に座りゆったりと談話したり、家事と一緒にしたり、共に生活していけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、着替の服を選んでいただきやすいようにしたり、洗顔、整容が自分で出来るように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー表に表示している、今日の献立の話をしたり、下準備等も一緒にしている。	季節感漂う食事 代表者の食べることは、ケアの中でも一番とっていいほど重要なものなのだとの思いが感じられました。利用者様も和やかな空気のなかで、なじみの職員と一緒に食べていました。	代表者の強い思いで、実施されてきた食事ケアの良いところを残しつつ、職員教育も兼ねて職員自ら提案し、実践が出来る食事支援に期待いたします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態によって、刻んだり、とろみをつけたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをおこない一部介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせてトイレ介助を行い、紙パットの使用を減らすようにしている。	本人のレベルに沿った支援に努め自信が持てるよう、優しい言葉掛け・見守りがなされていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人には、牛乳、ヤクルト、ヨーグルト等で排便を促すようにしたり、運動をして蠕動運動している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後より体調を見ながら、ゆっくりと入っていただけるように、援助している。	個々の入浴習慣、身体的レベルも配慮し、ゆったりとした入浴時間のなるように努力していました。声かけも非常に優しく、穏やかな対応ができていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を調整し、本人が安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	先生の指示、処方箋を確認し、服薬の支援と状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩も天気の良い日には、行っている。誕生日には、本人の好きなものを聞くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設のまわりを散歩したりして、季節を感じていただくようにしている。近くのお大師様におまいりに行かれる時は、職員と一緒に行く。援助を行う。	日常的に気軽に、近所散歩をされているようでした。立地的に、のどかで静かな環境と、良好なご近所との関係の中 地域密着型施設として地域にとけ込まれているようです。季節行事などの機会を活用し外出機会の幅を広げる努力をされていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が預けたお金は、家族に許可を取ってから、所持してもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分の携帯電話で家族に電話したり、家族の方に手紙を書かれるとポストに入れたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や、季節感を取り入れて、居心地よく過ごしていただけるように援助している。	室内だけが利用者のいる空間でなく、施設が建ってある場所も含めた空間活用ができていました。、窓からのぞく田園風景は心和む、一枚の絵画のようでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで談話したり、新聞を読まれたり、スタッフと家事援助をしたり、各々自分のペースで生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるものや、写真など持ってきてもらい、居心地よく過ごせるようにしている。	居室は個々の個性が活かされている。強制ではなく、利用者本位のケアが実践されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がよくわかるようにしたり、季節を感じるできるように壁画飾りをしている。		